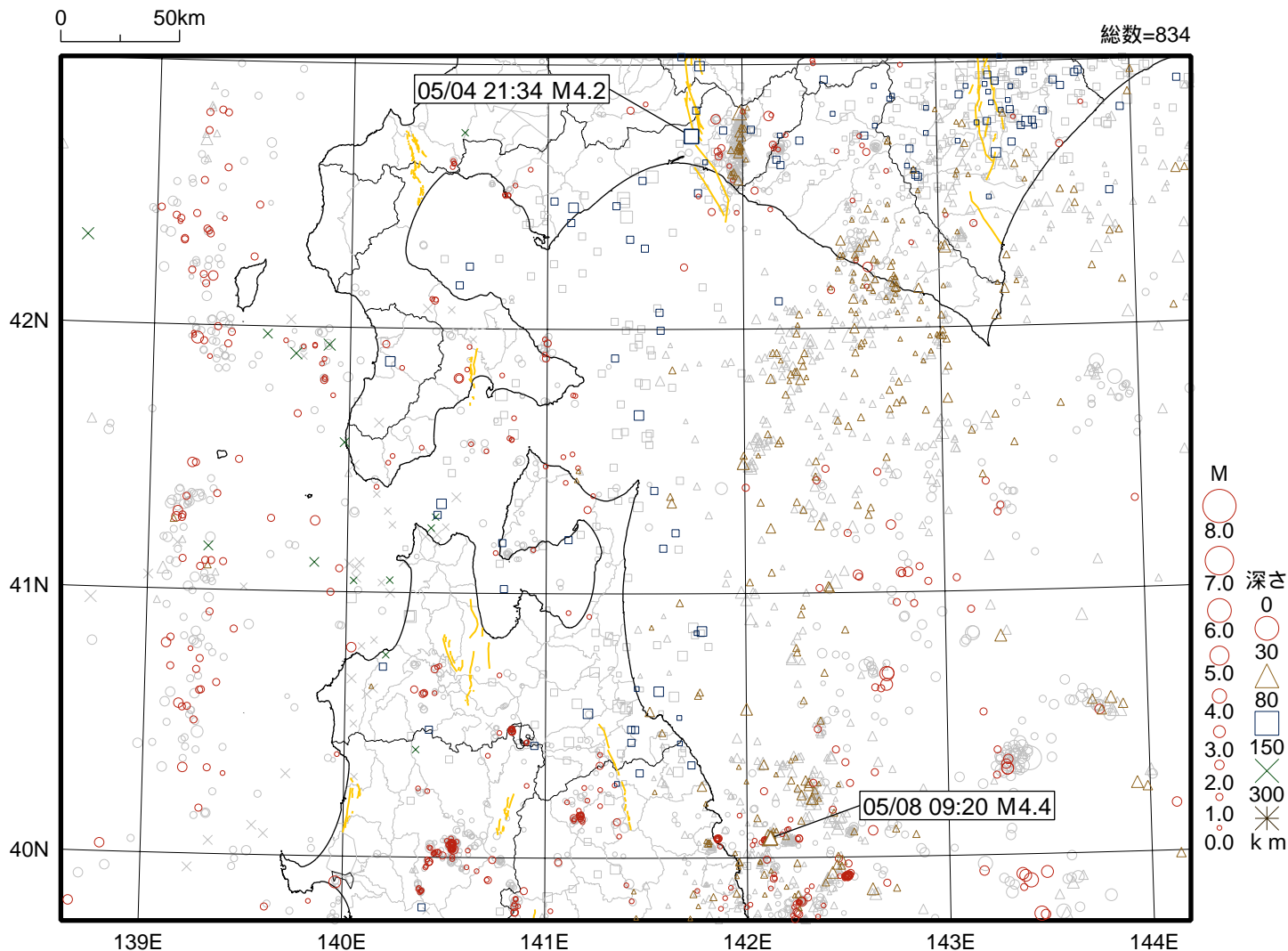


渡島・檜山地方の地震活動図

2019年5月1日～2019年5月31日

震央分布図

函館地方気象台



これは暫定値であり、データは後日変更することがあります。

記号Mはマグニチュードを表します。

図中橙色の線は地震調査研究推進本部による主要活断層を表します。

過去の地震活動と比較するため、前3ヶ月(今期間を含まない)の震央を灰色のシンボルで表します。

地震概況(2019年5月)

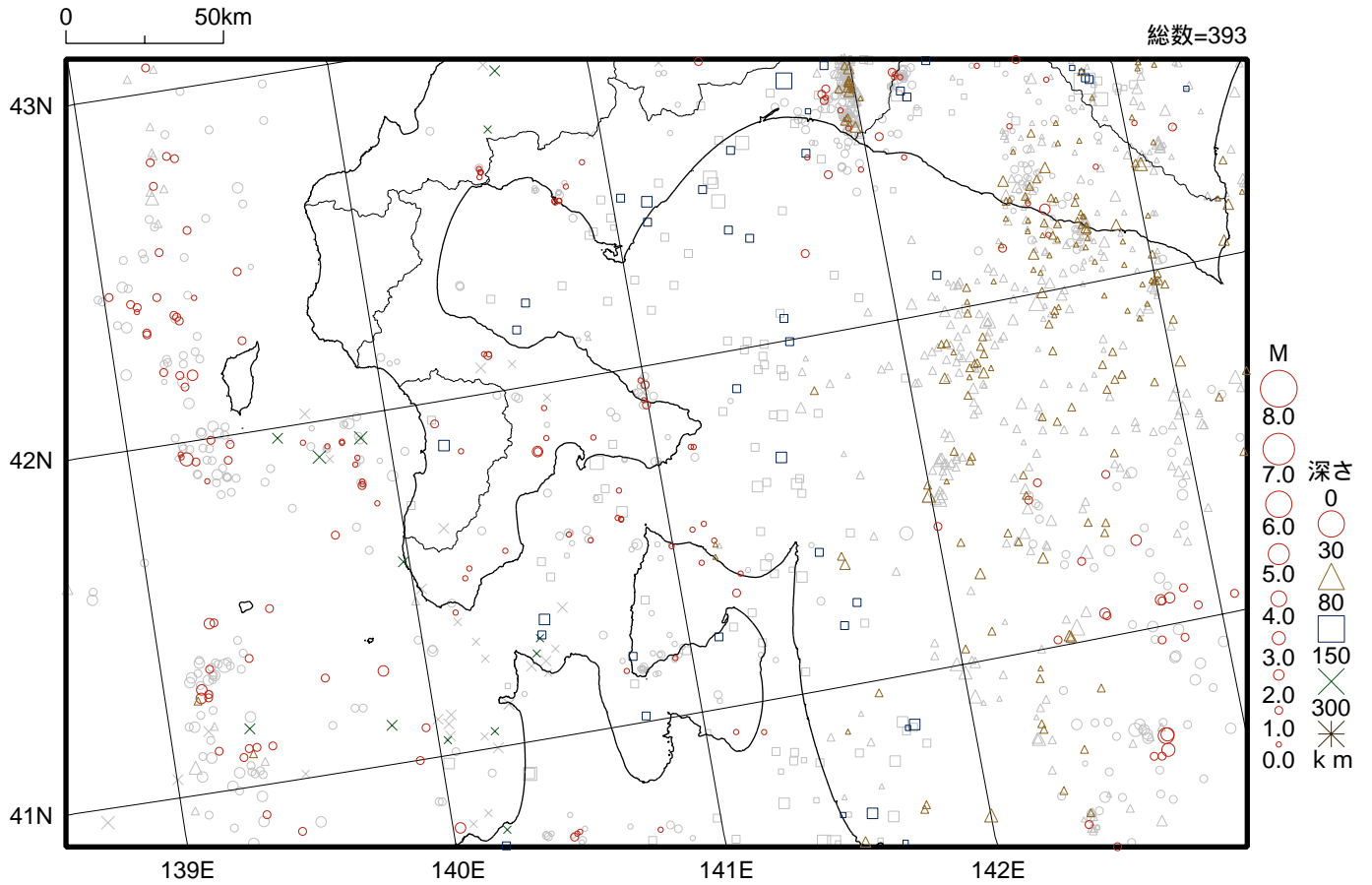
この期間、渡島・檜山地方の震度観測点で震度1以上を観測した地震は2回(前月は8回)発生しました(「震度1以上を観測した地震の表」参照)。

4日21時34分、胆振地方中東部の地震(M4.2、深さ133km)により、函館市泊町、函館市新浜町で震度1を観測しました。

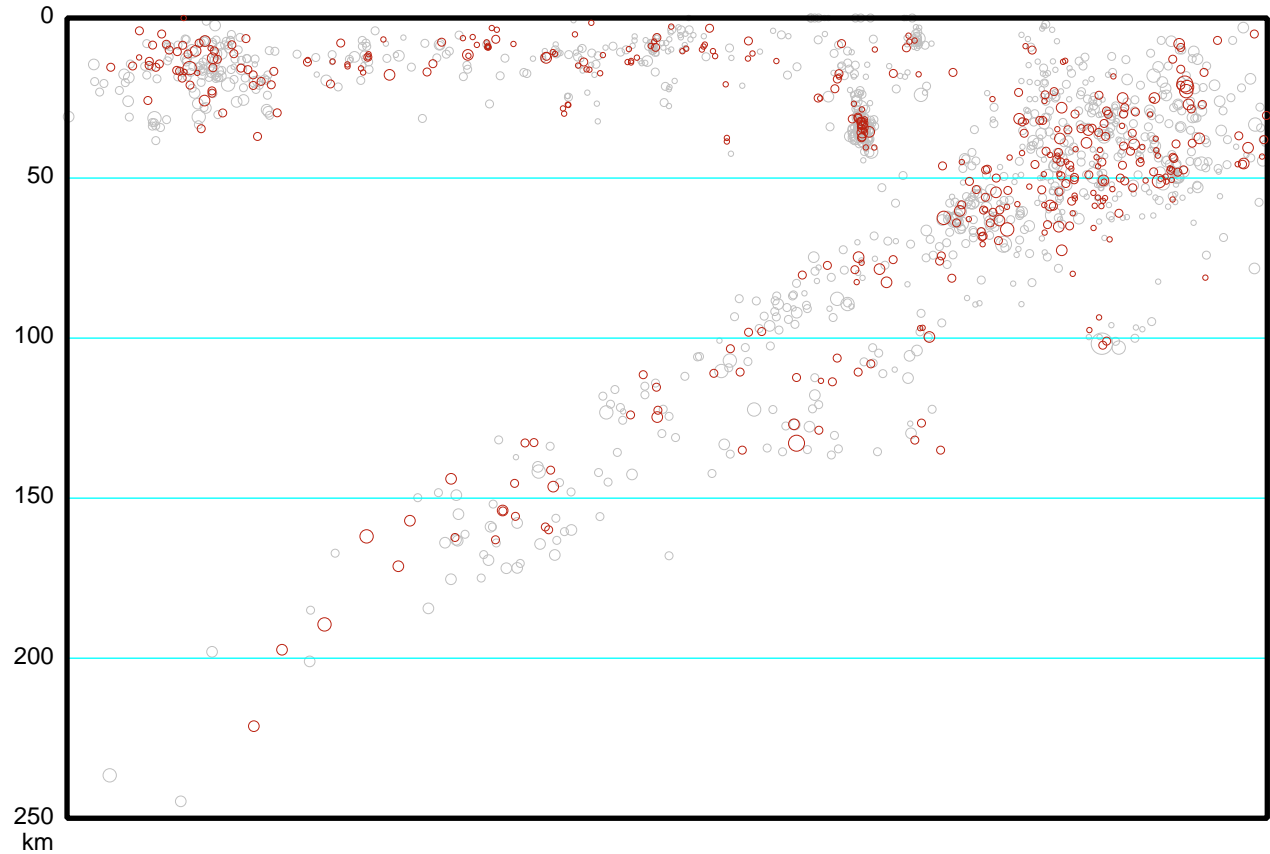
8日09時20分、岩手県沖の地震(M4.4、深さ48km)により、函館市泊町で震度1を観測しました。

2019年5月1日 ~ 2019年5月31日

震央分布図



断面図



これは暫定値であり、データは後日変更することがあります。
記号Mはマグニチュードを表します。
過去の地震活動と比較するため、前3ヶ月（今期間を含まない）の震央を灰色のシンボルで表します。

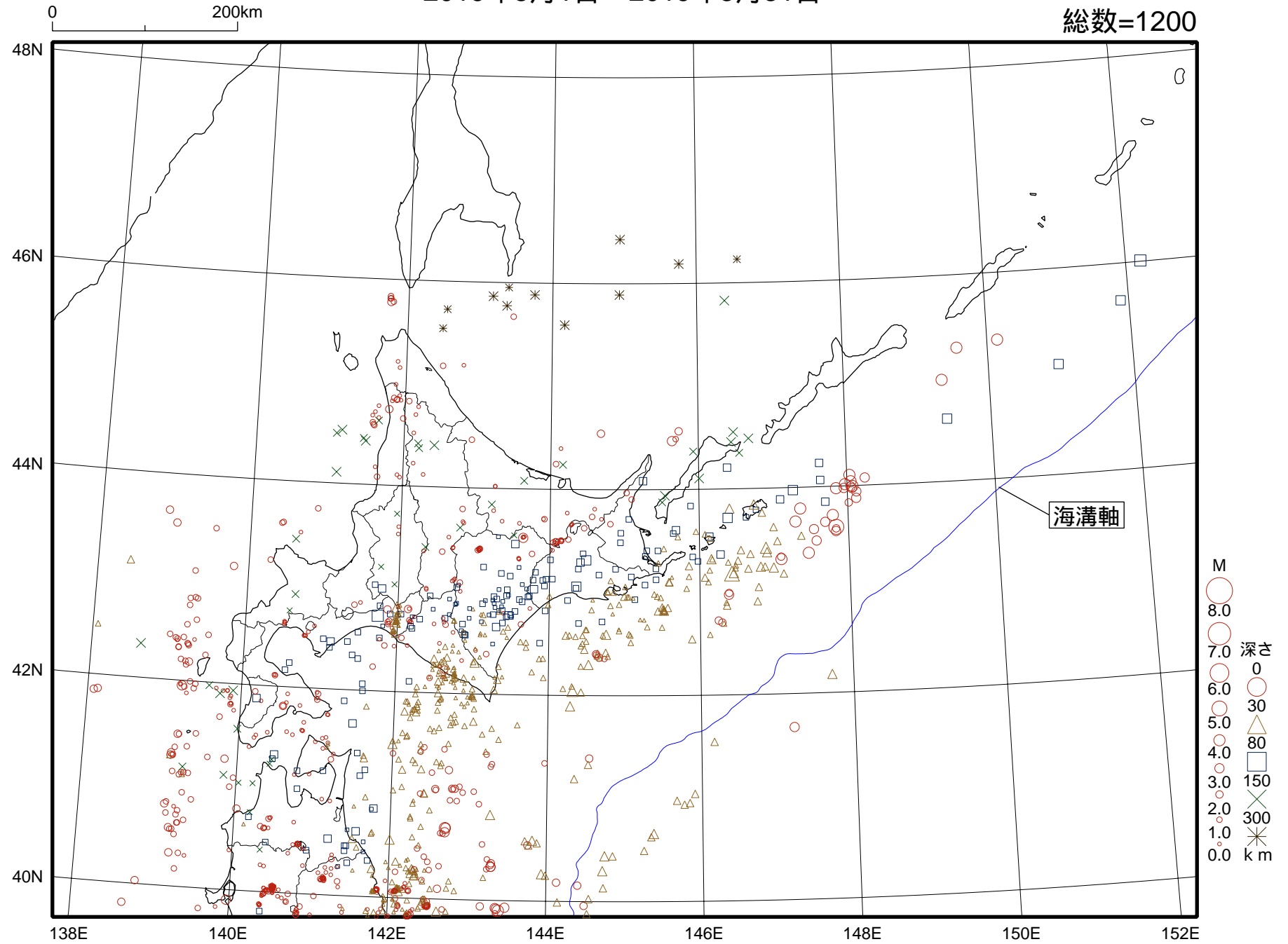
北海道の地震活動図

2019年5月1日 ~ 2019年5月31日

札幌管区気象台

総数=1200

震央分布図



震度 1 以上を観測した地震の表 (2019年5月)

年 月 日 地方	時 分 震度	震央地名 震度観測点名	北緯 (N)	東経 (E)	深さ (k m)	規模 (M)
2019年 5月 4日 渡島地方	21時34分 震度 1	胆振地方中東部 函館市泊町* (05) 函館市新浜町* (13)	42 ° 43.7 N	141 ° 44.2 E	133 k m	M4.2
2019年 5月 8日 渡島地方	09時20分 震度 1	岩手県沖 函館市泊町* (05)	40 ° 04.4 N	142 ° 06.9 E	48 k m	M4.4

各地の震度は、渡島・檜山地方のみを掲載しています。

* のついている地点は地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

地震概況ではセントロイドの深さで表現した地震が含まれている場合があります。

震源の緯度、経度、深さ、規模は暫定値であり、データは後日変更することがあります。

()内の数値は0.1単位の詳細な震度(計測震度)の小数点を省略して表しています。

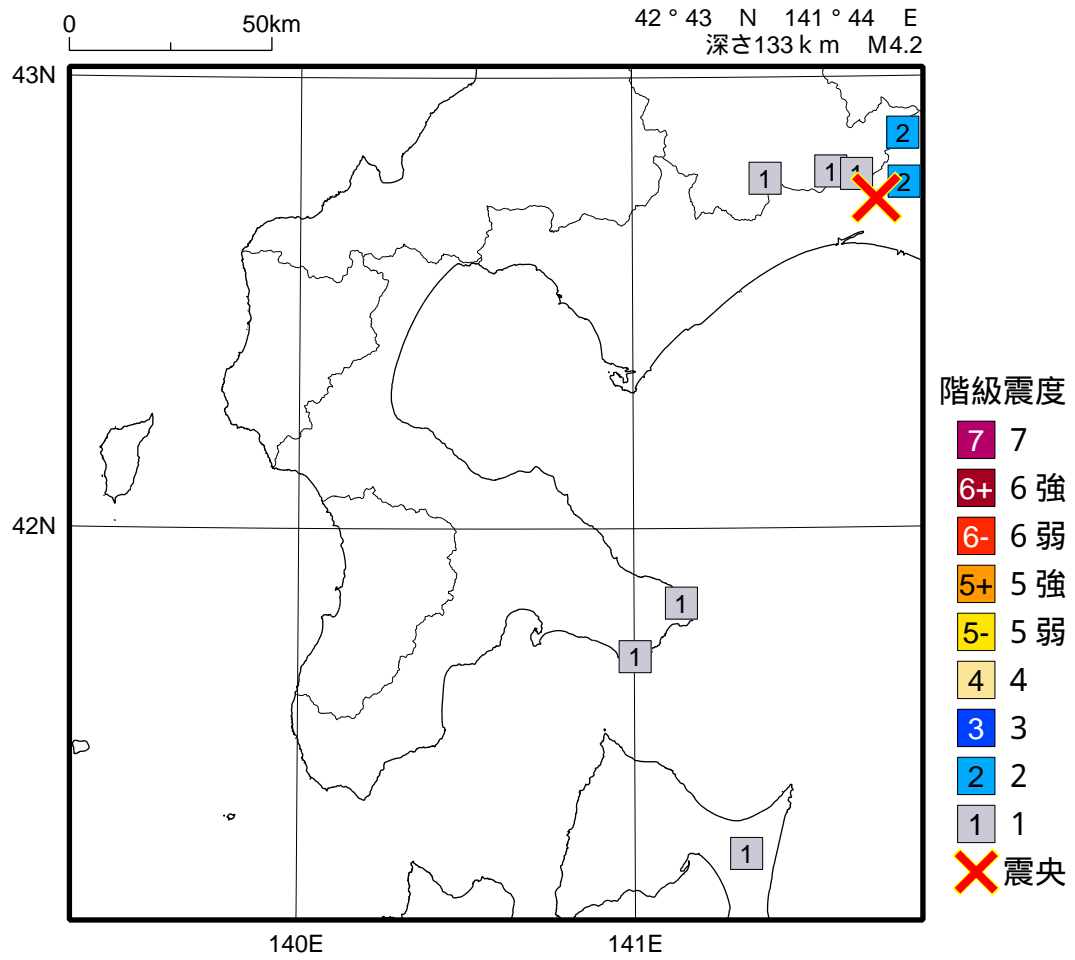
計測震度と震度階級の対応は下表のとおりになっています。

計測震度と震度階級の関係

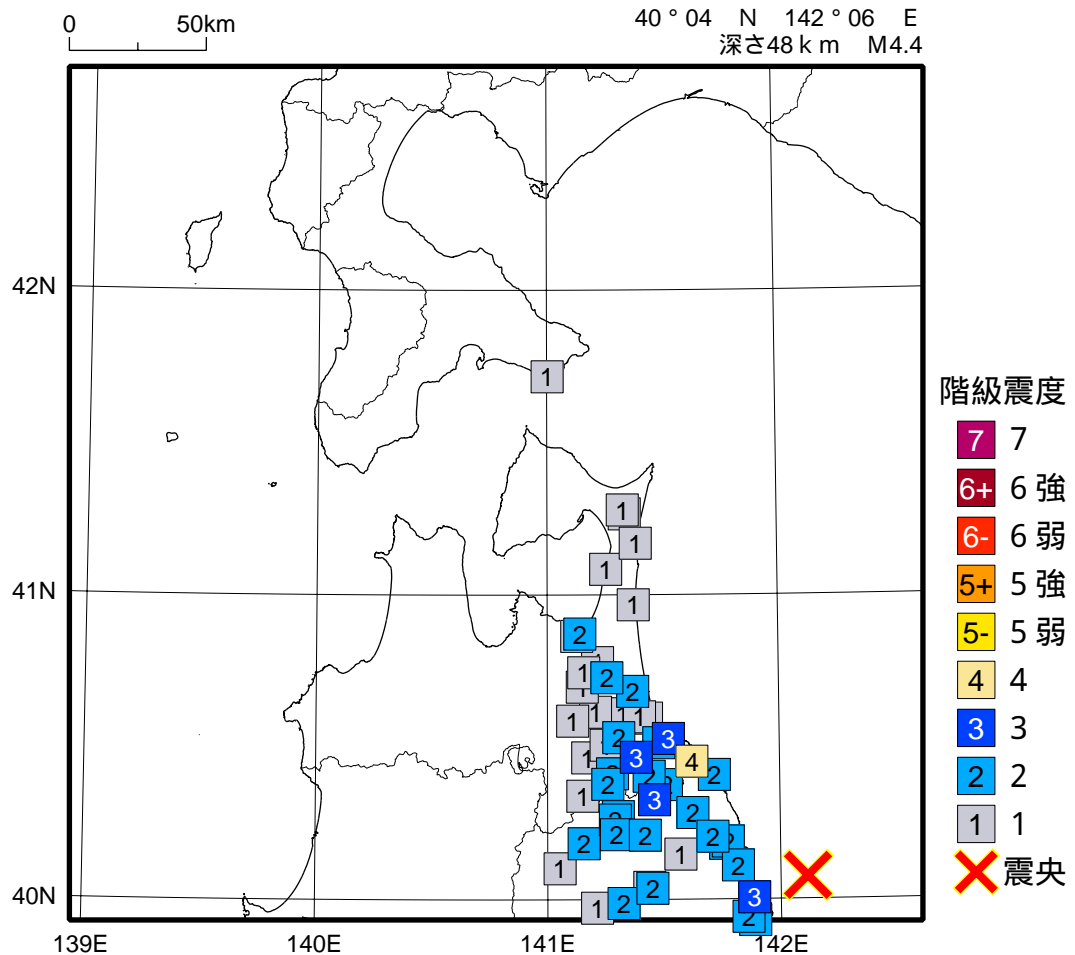
計測震度	~0.4	0.5~1.4	1.5~2.4	2.5~3.4	3.5~4.4	4.5~4.9	5.0~5.4	5.5~5.9	6.0~6.4	6.5~
震度階級	0	1	2	3	4	5弱	5強	6弱	6強	7

本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点(河原、熊野座)、米国大学間地震学研究連合(IRIS)の観測点(台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東)のデータを用いて作成しています。

2019年 5月 4日21時34分 胆振地方中東部の地震の震度分布図



2019年 5月 8日09時20分 岩手県沖の地震の震度分布図



【防災メモ】

～震度とマグニチュード～

震度とマグニチュードの違い

震度は、ある場所での地震による揺れの強さを表し、図1のように震源から遠く、揺れが伝わる地盤がかたいほど小さくなります。一方で、マグニチュードは地震そのものの大きさ（規模）を表し、震度との関係は、図2のように電球の明るさと周りの明るさとの関係によく似ています。電球の明るさを表す値がマグニチュード、電球から離れたある場所の明るさが震度に相当します。つまりマグニチュードが大きくても（電球が明るくても）震源から遠いところでは震度は小さく（暗く）なります。

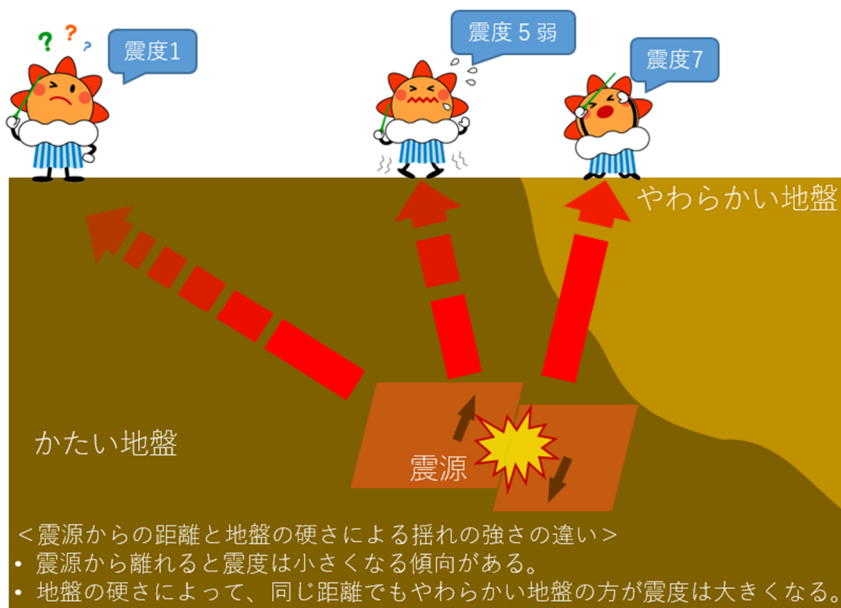


図1 揺れの強さの違い

マグニチュードや震度は世界共通？

マグニチュードは大まかに言うと世界共通です。ただし、国や機関によって使っている計算式や地震観測網が違うために、新聞などで見る外国の地震のマグニチュードが気象庁の発表したものと少し違う場合があります。

震度は構造物への被害等を参考に決めており、国や地域によって構造物の強度も違うため、様々な指標があります。日本では、「震度0」、「震度1」、「震度2」、「震度3」、「震度4」、「震度5弱」、「震度5強」、「震度6弱」、「震度6強」、「震度7」の10階級で表し、震度計で観測します。一方、外国では主にMM震度階（モディファイド・メルカリ・スケール（改正メルカリ震度階））という12階級での表現を使っています。これは体感や被害によって決められるものです。

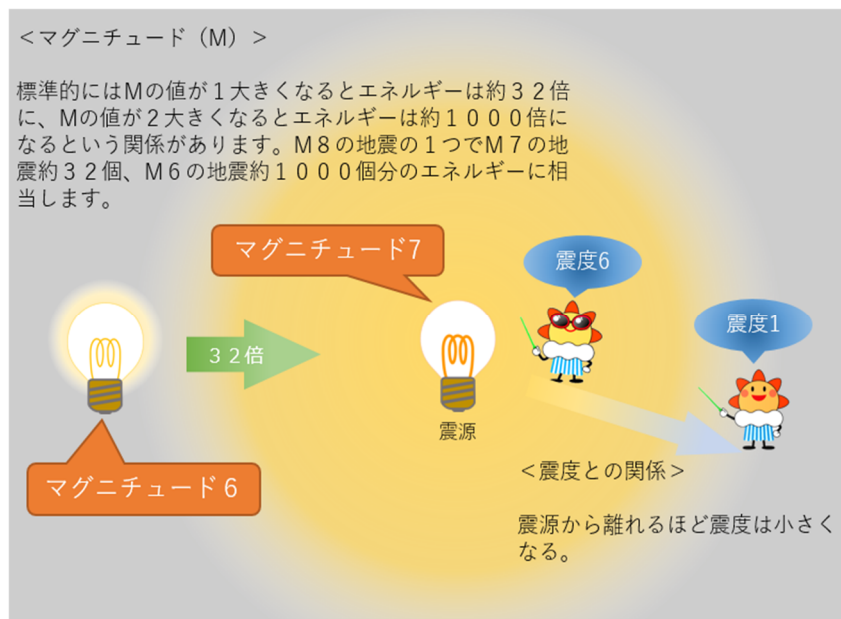


図2 マグニチュードと震度

日本でも以前*は体感による震度観測を行い、震度7の地域については事後の現地調査で決定していました。現在は、震度計により震度を観測し、速報する体制をとっています。

*平成3年4月から計測震度計の導入を開始し、順次全国に展開しました。これに伴い、平成8年3月までに体感による震度観測を終了しました。